

## 初めに

少し古い話になりますが、あいちトリエンナーレ「表現の不自由展・その後」で起こった市民からの猛抗議で展示中止に至った問題。

昭和天皇の写真を焼く映像作品もありましたが、芸術家は「戦争責任や反戦を訴えたい」のだらうと思いました。しかし、その表現方法に嫌悪感を抱かれてしまえば、伝わるものも伝わりません。

焼かれてしまうのが昭和天皇であれ、誰であれ、私たちはそのような表現に快い気持ちは持ちません。それこそ、戦争で鬼畜〇〇などと敵国を人としてみないのと同じ行為です。

報道などでは、「表現の自由と権力の及ぶ範囲」や「韓国との関係」などの視点が多く、展示作品そのものに対する意見は少なかつたように感じましたが、私は発表する時代や国、場所によって、最適な表現方法があると思います。

例えば、戦争賛美に加担した芸術家たちの苦悩や責任を表現することでも「表現の不自由展」に適した作品を創ることが出来たのではないのでしょうか。

私たち議員も同じですが・・・

伝えたいことを伝えたい人に、きちんと届けられる作品（言葉）なのか。

あいちトリエンナーレの騒動を見て、自らも省みていきたいと思いました。

豊川市議会議員(豊川市民オンブズマン代表) 倉橋英樹



## 2019年豊川市議愛議員選挙のポスター公費請求状況

右ページに詳細一覧表も添付しておりますが、2019年4月の選挙では、選挙ポスター掲示場の削減もあり、公費請求平均単価が低下しました。

2011年 平均	2015年 平均	2019年 平均	2015年との差額
290,648 円	283,366 円	256,379 円	- 26,987 円

上記の差額を公費請求者34人で掛け算すると2015年比で財政削減効果は約92万円(2011年比で117万円)となります。

今後も、「市民の税金であること」を意識して、各候補者が選挙に臨んでもらえるよう期待していますし、監視をしていきたいと思えます。

### 【選挙公営制度(公費による選挙ポスター)とは】

お金のかからない選挙を実現するとともに、各候補者間の資産の多寡による選挙運動の機会不平等を是正させる為の制度です。

具体的には、一定の得票数を得ることが条件となりますが、選挙ポスターや選挙用自動車のレンタル料などが公費で支給されます。

## オンブズ議員の活動報告

③

## 主権者の皆様へ

## ～2019年豊川市議選挙のポスター公費請求額～

選挙ポスターの公費支出について、過去には全国で不正請求疑惑が起こり、一部候補者も罪を認め、返還にまで発展するなど、その制度の不備が指摘されてきました。

私は選挙公営の改善を議会で訴え、費用明細の添付など少しずつ改善はしてきておりますが、請求上限額の引き下げなど根本改善には至っていません。そこで、公費請求の一覧(上位16名、下位2名)を公開していく事で、立候補者と市民の皆様「市場価格を意識」して頂こうと思えます。

\*ポスター公費請求順(同額の場合は得票順)

得票数	候補者名(敬称略)	会派	ポスター代金	印刷業者の所在地
2,852	富田 潤	みらい	421,740	千葉市
932	西川 米子	-	421,740	豊橋市
2,232	奥澤 和行	みらい	306,720	豊川市
2,603	今泉 淳乙	みらい	298,200	豊川市
564	碓谷 泰代	-	293,940	豊川市
2,125	神谷 謙太郎	みらい	289,467	豊川市
2,443	井川 郁恵	公明党	287,550	名古屋市
2,361	中川 雅之	公明党	287,550	名古屋市
2,325	柴田 訓成	公明党	287,550	名古屋市
3,063	早川 喬俊	みらい	280,450	豊川市
2,334	野本 逸郎	みらい	273,789	豊橋市
2,561	加藤 典子	みらい	273,350	西尾市
3,110	安間 寛子	共産党	251,411	名古屋市
2,183	佐藤 郁恵	共産党	251,411	名古屋市
2,987	浦野 隼次	みらい	249,210	豊川市
2,941	鈴木 義章	みらい	249,210	豊川市
	～中略～			
4,394	堀内 重佳	みらい	164,862	名古屋市
2,265	倉橋 英樹	一人会派	97,980	豊川市

各候補の得票数を見て頂くと、高額なポスターでないで当選できないこともなく、例えば今回選挙の平均額26万円を公費上限にしても、公平な選挙は実現できます。

多少割高でも昔からのお付き合いのある候補もいらっしゃるかも知れません。しかし、市民の税金ですから、なるべく高額な業者を避け、出来れば地元業者を使うなどの配慮をしていくのが、豊川市議として最初の仕事ではないでしょうか。

ご意見やご質問、情報提供などお待ちしております。

制作及び 文章責任	くらはし ひでき <b>倉橋 英樹</b>	連絡先(携帯) 090-6577-6895 fpkura@yahoo.co.jp
住所 F B	愛知県豊川市御津町広石広国49-1 <a href="https://www.facebook.com/fpkura">https://www.facebook.com/fpkura</a>	

報告紙の一部を福祉作業所様に配布委託することで、私の高い議員報酬を有効に使わせて頂いております。地域によって配布時期が異なることもありますが、ご理解願います。

# 9月定例会 / 一般質問

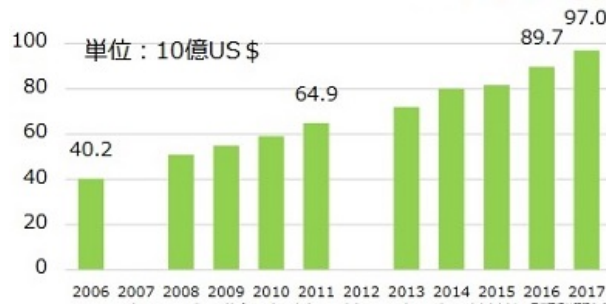
## 循環型社会の為の有機農業等の普及推進について

国は、「農業の持続的な発展と環境と調和のとれた農業生産の確保」が重要であるとして、《**有機農業の推進に関する法律**》を施行し、その普及を目指しています。

そして、世界の有機食品市場はこの10年で2倍に成長してきており、日本でも**関東圏を中心に有機食品の需要が伸びてきている**そうです。

そこで、本市の状況と施策を質問しました。

\* 世界の有機食品売上の推移



(農林水産省「有機農業をめぐる事業」より)

### (質問・答弁要旨抜粋)

Q (倉橋の質問)	A (市当局の答え)
環境に配慮した農業の取り組みとして、 <b>政府は有機農業や環境保全型農業の拡大を提唱</b> しているが、この有機農業と環境保全型農業の違いは？	有機農業は、化学肥料および農薬を使用せず、遺伝子組換え技術も利用しないもの。環境保全型農業は、化学肥料および農薬の使用等を軽減したもの。
国全体では、有機農業の取組面積割合は現在0.5%となっているが、愛知県及び豊川市の現状は？	愛知県は0.3%となっている。豊川市は国の交付金事業対象となっている92アール(0.03%分)を把握しているが、他に組み入れている状況を把握していない。
本市の有機農業などの普及・推進に対する姿勢は？	特別栽培やエコファーマーと称される、 <b>化学肥料や化学農薬の使用量を削減した農業の普及を足がかりに、段階的な有機農業の普及・拡大をしていきたい。</b>
化学肥料及び農薬を削減した農業生産方式の普及とのことですが、いま本市が取り組んでいることは？	「 <b>こだわり農産物認証制度</b> 」を実施。慣行農業から3割以上、化学肥料(窒素成分)や農薬の使用を低減した農産物に認定シールを貼って、安全安心な農産物としてPRしている。
農薬などを3割減らすのと、100%減らすのでは、労力は大きく違う。シールに例えば、100やSuperと記入するなどしてランク分けすれば、 <b>有機栽培に近づける意欲も出る</b> のでは？	生産者からは、化学肥料や農薬などの <b>低減率が違うのに同じシールを貼られるのは悔しい</b> という声もある。一方で、品目の調整や価格設定など、整理すべき点も数多くあるため、 <b>慎重に検討していきたい。</b>

化学肥料や化学農薬は現在の農業を支えているものですが、同時に生態系や環境への懸念も取沙汰されています。

また、農薬などには効果を持続させるためにマイクロプラスチック被膜も使われており、**地球のプラスチック汚染にもつながっており、その抑制も考えていかなければなりません。**

買い物は投票といえます。ときには「**こだわり農産物**」を意識して買っていくことも、**未来の社会を変える一票**になります。(こだわり農産物認定シール)



税金の使い方を考えよう

(左ページからの続き)

## 循環型社会の為の有機農業等の普及推進について

有機農業などの普及には、生産者の努力だけでなく、それを消費する需要の面、消費者の理解も必要です。そこで需要に関わる部分も質問しました。

### (質問・答弁要旨抜粋)

Q (倉橋の質問)	A (市当局の答え)
今後の有機農産物や特別栽培農産物(こだわり農産物)などの消費者を増やすための取り組みについて伺う。	「 <b>豊川市こだわり農産物を味わえる店</b> 」認定制度を創設予定。安全で安心な農産物、しいては有機農業の普及・推進のきっかけとしたい。
有機農業を推進していくのに大きな役割を果たすのが、 <b>給食での有機農産物などの使用</b> ですが、一方で課題も有るという。その認識は？	本市では給食センターで17,000食を調理するため、食材の大きさや形状が揃っていることが前提となり、さらに均質な農産物が大量に調達できることも条件となる。また価格の課題もある。
課題は色々あるが、学校給食への有機農産物の取り入れをしている自治体もあると聞く。そこで他市の状況を聞きたい。	今治市では、単独自校方式の調理場(学校ごとに調理)を進めながら有機農産物を取り入れている。国立市では、給食基準に「 <b>農薬の使用を極力抑えたもの</b> 」とし、有機農産物や特別栽培農産物を給食に取り入れています。
本市も将来的には、学校給食に有機農産物やこだわり農産物を取り入れる検討をして行くべきではないか。	現段階では特に検討していないが、有機農産物やこだわり農産物について情報や動向を注視して行く。また、 <b>学校給食物資規格書を始め様々な課題について検討して行くことも必要</b> と考えている。
学校給食のセンター方式とは違い、単独自校方式ともいえる「 <b>各園で調理</b> 」する保育園での状況はどうか。	市内の私立保育園では一部の保育園にて有機農産物を利用している。安全性を考え主に離乳食に利用しているそうです。ただ、数量が少ないため、 <b>有機野菜以外の野菜と一緒に調理している</b> とのこと。
保護者の方に聞くと、ビュッフェ方式で給食が提供され、形の揃ったものを「 <b>欲しいものを欲しいだけ食べる</b> 」ということの問題にならず、むしろ好評といえます。そこで、有機野菜などの利用推奨はしていかないか。	豊川市食育推進計画では「 <b>環境にやさしい食育</b> 」を推進している。食育推進の一環として「 <b>こだわり農産物</b> 」などを今後の状況に応じて、各施設へ情報提供をしていくことも考えている。

有機農産物などの給食利用には「**食材の大きさや形状が揃っていない**」ことが課題としてあげられていました。しかし、そのような画一的なものを求める思考が、生物の多様性、ひいては人間の多様性を認めない、狭量な人間を生み出し、「**人と違って良いんだよ**」という精神性が育まれ難くなっている様にも感じてしまいます。

今回、有機農業などの推進を促す質問をしてきましたが、緩やかにでもより環境に配慮した農業生産方式に、消費者(需要)の変化から誘導出来たらと思います。

また慣行農業と有機農業はその考え方の違いから、衝突してしまう事もあると聞きます。双方が理解し合えるよう、調整・棲み分けなど行政だからこそ出来ることを考えていきたい。